

国語 第4学年 日本語の数え方について考えよう

検討会の想定問答

指摘 1: この単元で身に付けることは何か。

返し: 日本語の数え方について、紹介したい考えと、それを説明する事例の関係を読む。珍しい数え方の収集だけで終わらず、数える言葉を考えるときに何に注目するかを要約して伝える。C(1)ウ・C(1)カの学習として、数え方の考えの紹介。中心、事例、要約、読んで考えたこと、自分の案と実際の用法の区別を記す。

指摘 2: 何をもって学習できたと判断するか。

返し: おおむね満足できる状況は、紹介する目的に合わせて中心となる語や文を選んで要約し、考えたことを共有しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。C(1)ウ・C(1)カの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3: 活動が楽しいだけで終わらないか。

返し: 数え方の考えの紹介を残す。中心、事例、要約、読んで考えたこと、自分の案と実際の用法の区別を記す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、C(1)ウ・C(1)カに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4: 難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し: 助数詞の暗記に偏る。自分で考えた数え方を実際に使われている語として断定する。これについて、考えの文と事例を対応させ、事例を省いても考えが説明できるかを確認する。創作した数え方は自分の案と明示し、慣用的な用法は辞書等で確認する。〔知識及び技能〕(2)アとC(1)ウ・C(1)カを切り離さず扱う。

指摘 5: 考えが違ったときはどう扱うか。

返し: 教師の結論を選ばせず、「数え方について書き手が伝えたいことを紹介するには、どの事例と説明を残すとよいですか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、C(1)ウ・C(1)カに関わる根拠を話し合う。

指摘 6: 本時の評価で態度まで決められるか。

返し: 本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7: 端末がない学級でもできるか。

返し: 数え方の考えの紹介は紙に記録できる。中心、事例、要約、読んで考えたこと、自分の案と実際の用法の区別を記す。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をC(1)ウ・C(1)カの評価の代わりにしない。

指摘 8: 時間が足りないとき、どこを残すか。

返し: 総時数の出典は東京書籍の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。C(1)ウ・C(1)カで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9: 新しい助数詞を正解として教えるのか。

返し: C(1)ウ・カを中心に書き手の考えを読み、児童の案は案として扱う。実際の言葉の用法と創作を分け、数え方の珍しさではなく考えと事例の関係を見る。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「数え方について書き手が伝えたいことを紹介するには、どの事例と説明を残すとよいですか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。C(1)ウ・C(1)カに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

